令和元年度事業報告書

1　令和元年度（平成 31 年度）の概要

令和元年度（平成 31 年度）は，公益目的事業及びそれを支える収益事業の着実な継続と経営自律化のため，指定管理業務やその他の事業の拡大に向けた取組を進めた。

公益目的事業においては，地球温暖化対策，生物多様性の確保，良好な生活環境や地域交流，防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため，京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。

公１事業（都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業）では，緑のボランティア団体支援，京都の生物多様性保全など都市緑化に関する各種事業，公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。

梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理業務は，新たな指定管理期間（令和元～４年度）の１年目を迎え，利用者の利便性・快適性確保のための取組みを進めた。特に梅小路公園においては，平成 31 年 3 月に JR嵯峨野線「梅小路京都西駅」及び再整備された七条入口広場の供用が開始され，公園周辺地域のエリアマネジメントの気運が一層高まり，本協会も，京都水族館，京都鉄道博物館等の公園施設管理者，エリアの企業・団体，及び京都市等との連携を強めた。

公２事業（京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業）では，日本庭園の良好な保全管理とともに，京都の庭園文化の情報発信等を行った。特に海外向けの情報発信として，京都の庭園を紹介する英文サイトを立ち上げた。

一方，令和２年２月２６日，政府の新型コロナウイルス感染症対策本部により感染症対策の基本方針が決定され，これを受けて国土交通省より都市公園の管理者に対して，また内閣府より公益法人に対してイベント開催の見直しや感染症対策についての要請等があり，本協会も京都市の指示・要請を受けながら，イベント中止，施設利用休止及び予防啓発を含む様々な対策を行った。

公園収益事業では，これまでの公益分野の公園運営の実績を生かし，新たに京都市深草墓園の指定管理業務（令和元～４年度）を受託することができ，運営方法の確立，景観に配慮した樹木整理やバリアフリー等に配慮した安全確保に注力した。一方，公園の飲料自動販売機の販売手数料等収益が大幅減益となり，収益事業全体の収益効率は低下した。

法人業務においては，評議員会を１回，理事会を２回開催した。このうち第 18 回理事会では，京都市外郭団体自律化の取組として基本財産の市出捐比率引下げの決議を行った。

経常収益計は，人件費の増加，飲料自動販売機設置台数の減少，新型コロナウイルス感染症対策（以下，コロナ対策という。）のため，事業の縮小等により収益性が低下したものの，新規業務受託による収入増加，台風接近の被害が前年度より小さく利用料金収入が堅調に伸びたことから，当期一般正味財産増減額はプラスとなり，９期連続で黒字となった。

２　令和元年度の事業実施状況

Ⅰ　公益目的事業　　決算額　213,752 千円　（予算額　220,557 千円）

Ⅰ－１（公１）都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額　189,174 千円　（予算額　199,852 千円）

都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として，管理運営する公園等を拠点として，各地域において講習会，イベント，広報その他様々な事業を行った。

(1)　緑の学校と人材育成

緑化に関する各種の講習会を実施し，緑化リーダー（(6) イ関連）などを育成する「緑の学校」を運営した。

ア　園芸・花壇づくりの講習会

a　園芸講習会

市民を対象として，園芸，造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

・講　師　花と緑の普及員　駒井修
・受講料　前期 4,000 円，後期 4,000 円
・受講者　前期 46 人／後期 41 人　　・参加者数 8 回計　322 人

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	5 月 23 日	カラーリーフを生かした寄せ植えと挿し芽実習
	第 2 回	6 月 20 日	ハンギングバスケットづくり実習
	第 3 回	7 月 18 日	アジサイのさし芽及び実生苗と草花の寄せ植え実習
	第 4 回	8 月 8 日	多肉植物の育て方と多肉植物を使った盆景づくり
後期	第 1 回	10 月 10 日	秋咲き草花を使った寄せ植え実習
	第 2 回	11 月 14 日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植えの作り方
	第 3 回	12 月 12 日	クリスマス花飾りづくり実習
	第 4 回	2 月 13 日	苔テラリウムづくり実習

b　家庭菜園づくり講習会（2 回シリーズ前期・後期）

自宅の玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学んだ。

・講　師　花と緑の普及員　駒井修
・受講料　前期 2,000 円／後期 2,000 円
・開催日　前期 4 月 26 日，5 月 17 日，6 月 7 日　／
　　後期 8 月 30 日，9 月 13 日，10 月 18 日
・受講者　前期 33 人／後期 25 人　・参加者数のべ 164 人

c　園芸セルフケア教室

園芸療法士（米国 HTR）の指導により，植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整える教室で，梅小路公園の花壇等を活用し開催。植物名，四季を通じた植物管理を学ぶとともに参加者間の交流を図った。

・講師　花と緑の普及員　寺田裕美子
・受講料　なし（保険料のみ）　・開催日　毎週木曜日　　・受講者　14 人

d　樹木の剪定教室

家庭の庭など身近な場所で活用できる樹木剪定の基礎を講義と実習を通じ学んだ
・講　師　花と緑の普及員　野杁勝俊
・開催日　12 月 6 日，13，20 日　計 3 回　　・受講料　1,000 円
・受講者　22 人

e　地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化モデル事業((5)ア)や行政からの要請等により，出張講習会等の主催又は講師の派遣を行った。

場所／テーマ	開催日	講　師	参加人数	備考
高倉小学校(中京区)／ヒオウギ講習会	5 月 24 日，10 月 7 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	計 150 人	中京区役所主催
中京区役所／ハーブの寄せ植え	9 月 11 日	烏賀陽百合（ガーデンデザイナー）	35 人	中京区役所主催
島原のぞみデイサービス（下京区）／植替え講習	5 月 30 日	寺田裕美子（協会）	通所者 15 人 セルフケア受講者 4 人	まちなみ緑化支援
東山区役所／東山区防犯のための園芸教室（新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ拡大防止のため寄せ植えｾｯﾄ渡しのみ）	3 月 16 日	駒井修（協会）	37 人	東山区役所主催
朱雀第四学区・朱雀第四小学校(中京区)／京エコライフプログラム・グリーンＵＰプロジェクト	2 月 21 日	伊藤信太郎（協会）	80 人	まちなみ緑化支援
乾隆学区女性会（上京区）／グリーンカーテン教室	6 月 29 日，9 月 3 日	駒井修（協会）	計 20 人	まちなみ緑化支援

イ　家庭の庭づくり講座

おもに家庭など身近なガーデニング（庭づくり）について，計画の立て方から造成，植栽，維持管理，庭での楽しみ方まで，講師との対話により学んだ。後期の 2 月 28 日から 3 月 27 日までの講座は，新型コロナウイルス拡大防止のため，中止し，受講者に日数分の受講料を払い戻しした。

・講師　花と緑の普及員　野杁勝俊
・受講者　前期　12 人／後期　27 人　・参加者のべ 149 人
・受講料　前期 3,000 円／後期 2,000 円

	開催日	実施内容
前期（夏～秋）	7 月 12・26 日，8 月 9・23 日，9 月 6・20 日，10 月 11 日	家庭の「庭づくり」，自宅の庭を考える，庭を造って植える，庭木の手入れ（剪定），草花の手入れ，庭の楽しみ方
後期（冬～春）	1 月 17・31 日，2 月 14・28※日，3 月 13※・27※日 ※の日は開催中止	家庭の「庭づくり」，自宅の庭を考える，庭を造って植える，庭木の手入れ（剪定），草花の手入れ，庭の楽しみ方

ウ　都市の生物多様性，京都ゆかりの和の花に関する講演会等

京都の生活文化に密接な関係がある希少植物を含む「和の花」を守り育てる活動，都市の生物多様性に関する講演会等の開催又は講師派遣等の協力を行った。

・アサギマダラとフジバカマをめぐる緑と生（源氏藤袴会主催）　6 月 30 日　新島会館

講師・森本幸裕（協会理事長）　約 100 人
・京都市生物多様性フォーラム in 洛西（京都市主催）　10 月 5 日　洛西支所
講師・森本幸裕（協会理事長）　約 50 人
・京都市立開睛館小中学校環境委員会・オケラ（白朮）の活用についての学習会（NPO 国境なき環境協働ネットワーク・当協会開催協力）　12 月 5 日　講師・武田薬品工業（株）京都薬用植物園　26 人

エ　庭園ボランティアガイド講座

新型コロナウイルス感染症対策のため，中止した。

オ　緑の散策ツアー

緑のスポットを訪ね歩き，緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりの取組みを考えるツアーとして，円山公園及び八坂神社周辺（東山区）の散策を行った。

・講師　駒井修（花と緑の普及員），仲林亨（八坂神社権禰宜）
・開催日　6 月 26 日　　・受講料 2,000 円　　・受講者　11 人
※3 月 18 日「京の庭めぐり（城南宮神苑）」は，コロナ対策のため中止。

(2)　自然環境に関する講習会・体験活動

ア　体験型講習会，自然観察会等

自然観察会，プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き，自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。

a　梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ，自然の仕組みを理解していただくことを目的として，ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ，協会職員等。

①　月例等定期の観察会

・参加料　無料（別途いのちの森入園料 200 円。グリーンフェア時は無料。）
・各回の実施内容（計 13 回・参加者計 217 人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4 月 20 日	植物の観察 1	10 月 6 日	グリーンフェア観察会
5 月 3 日	グリーンフェア観察会	10 月 17 日	植物の観察 6
5 月 18 日	植物の観察 2	11 月 16 日	紅葉する植物
6 月 15 日	きのこの観察	12 月 21 日	植物の観察 7
7 月 20 日	植物の観察 3	1 月 18 日	野鳥の観察
8 月 17 日	植物の観察 4	2 月 15 日	苔の観察
9 月 21 日	植物の観察 5	3 月 21 日	公園植物（中止） ※新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ拡大防止のため

②　子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会をシリーズで開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり，植物（コメ，藤袴）の生長を見守り，展示・収穫するなどの体験を通して自然に親しむ機会をつくった。

・講師　いのちの森モニタリンググループ（田端敬三・北川ちえこほか），稲垣文拓（乙訓の自然を守る会），小谷尚江（協会プレイパークリーダー）
・対象　小学生（一般公募）・受講料 2,600 円（6 回分）
・参加者数　のべ 130 人（保護者除く）

回	開催日	内　容
第１回	５月 18 日	田植え・ヒオウギ植替え
第２回	６月 15 日	フジバカマの苗づくり
第３回	７月 20 日	ヒオウギ観察
第４回	８月 10 日	かかしづくり
第５回	９月 14 日	稲刈り体験
第６回	10 月 19 日	脱穀体験

b　宝が池公園自然あそび教室

①　子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

遊びを中心とする通常のプレイパーク活動（(7)エ）とは別に，子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし，遊びながら学べる教室を実施。自然観察のほか，クラフト，自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラムを行った。

・開催日 原則第１・第３土曜日

・実施回数　計 27 回（30 年度は 31 回実施）　・のべ参加人数　524 人

・特別プログラムのテーマ　ツツジに染まる宝が池ハイキング，水辺の生き物発見隊，ナイトウォッチング～セミ羽化観察，縄文式土器づくりに挑戦（（公財）京都市埋蔵文化財研究所協力），夏休みキャンプ，宝が池に水鳥に会いに行こう等

イ　環境学習養成講座

体験型の環境学習の活動を支える人材（リーダー）の養成を，学習会や子ども向けプログラムの実践を通じて行った。

a　宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに，低利用，ナラ枯れ，シカ食害等により次世代の植物が育たない危機的な状況にある森の問題を，座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。

・参加費　1,500 円（6 回，一般）など（中高生割引あり。1 回のみ参加も可。）

・場　所　京都府立大学，京都工芸繊維大学，上高野防災会館等

・参加者　のべ　114 人

回	開催日	内　容／ 講 師（敬称略）
第１回	６月 19 日	湧水湿地をよみがえらせるためには／富田啓介（愛知学院大学）
第２回	７月 14 日	森と水辺をつなぐいきものたち／竹門康弘（京都大学防災研究所）
第３回	９月 22 日	宝が池界隈のかつての風景／中村治（大阪府立大学），二井一禎（京都大学名誉教授）
第４回	10 月 27 日	森の基盤/土壌と植生　／ 中尾淳（京都府立大学 生命環境学部），丹羽英之（京都先端科学大学バイオ環境学部）
第５回	11 月 24 日	身近な森を楽しむ／福井亘（京都府立大学），高柳敦（京都大学）
第６回	１月 12 日	森「妙法」の森の役割とくらし・安全／三好岩生（京都府立大学），柴田昌三（京都大学地球環境学堂）

※特別回（3/14，京都市埋蔵文化財研究所協力の「東山の山城をめぐる」）はコロナ対策のため中止。

(3)　花とみどりの相談所（緑の相談所）運営

ア　相談業務

植物，園芸等に関する技術的な相談を梅小路公園で無料で行っている。また，各地の緑の団体からの相談にも応じている。

・相談日　毎週２日（水曜日，土曜日）及びイベント等での出張相談
・時　間　午前10時～午後４時まで（面談又は電話による。）
・相談員　原田弘種，野杁勝俊（定例）,花と緑の普及員・緑化リーダー等（出張相談）
・実　績　相談日数　105日
　　相談件数（内容別）1,274件（うち面談による相談52%）

イ　京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し，フジバカマなど京都ゆかりの和の花，希少な山野草等の保全・繁殖に取組み，展示会等を通じた普及活動を行った。この一環で「京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の認定団体など希少植物の保全を行う団体に対して希少植物保全に関するアドバイス(出張相談)，その他の協力を行った。

a　希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定制度１件(日本新薬株式会社山科植物資料館)，京都モデルフォレスト協会企業参加の森づくり（三洋化成工業の森,和束町）ほか，アドバイス等の実績８団体10件

b　施設･環境イベント等での普及啓発活動

・京都駅ビル　京都駅ビル３階の緑化展示施設「緑水歩廊」で和の花を展示。（フジバカマ10月１日～10月10日，キクタニギク11月20日～12月２日）

c　京都伝統文化の森推進協議会による東山･菊渓の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市林業振興課）が令和２年３月20日に，高台寺山国有林内の菊渓川支流で市民参加による「キクタニギクの花咲く菊渓の森づくり」を予定していたが，新型コロナウイルス拡大防止のため中止。植栽は「京都伝統文化の森推進協議会」が行い，植栽のための苗を，ＫＥＳ生物多様性プログラム（下記ウ）参加企業・団体を通じて確保するなどの協力を行った。

d　京都市動物園の希少植物保全活動への協力

京都市動物園では「京都の森」等で希少植物の生息域外保全に取組んでおり，栽培管理のアドバイス等の協力を行った。

ウ　ＫＥＳ生物多様性プログラムへの参画

ＫＥＳ（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利法人ＫＥＳ環境機構が26年度から実施している生物多様性プログラム「エコロジカルネットワーク」の企画・実施に参画した。希少植物の生息域外保全のほか，自社敷地緑化，地域活動を環境改善目標に採り入れ，計254団体が参加した。

a　取組説明会（梅小路公園緑の館）

・開催日等　４月25日　79人（67団体）
・説明者　京のアジェンダ21フォーラム，京都市環境管理課，本協会，（一財）葵プロジェクト，京都駅ビル開発（株），ＫＥＳ環境機構

b　希少植物の栽培講習会（みやこめっせ）

・開催日等　第１回　５月23日　47団体66人,第２回　６月13日　41団体48人

・講師　（一財）葵プロジェクト，藤井肇・秦賢二（本協会緑化リーダー）
・内容　フタバアオイ，フジバカマ，ヒオウギ，キクタニギク，オミナエシ，アヤメ，クリンソウ，ノカンゾウの計８種の栽培管理について講義及び実習指導した。

エ　公益社団法人日本植物園協会の活動

本協会は植物園の管理運営をしていないが，緑の相談所や類似施設を運営する団体として（公社）日本植物園協会に入会し，同協会が「ふるさとの植物を守ろう」と呼び掛ける希少植物保全等に関し，「在京滋植物園情報交換会」等を通じた情報交換，研修等を行っている

・参加実績　第 54 回大会（総会，分野別会議等，5 月 23～25 日，東北大学）
　　在京滋植物園情報交換会（6 月 27 日，草津市みずの森水生植物園）
・希少野生植物種等調査（同協会と環境省との連携事業）への協力　種の保存法リスト掲載のオニイノデの現地調査（乙訓の自然を守る会協力）。11 月 1 日，15 日

(4)　緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体や京都新聞社，ＫＢＳ京都等のマスメディアとの連携を図りながら，植物，緑の文化，公園緑地の多面的な大切さを訴える様々なイベントを開催した。

ア　みどりの月間，都市緑化月間等のイベントの開催，協力

a　梅小路公園グリーンフェア 2019 春／秋

みどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ，安らぎ，にぎわいを多くの人に感じていただくため，春と秋の 2 回実施。

開　催　日		天　候	来場者数
春	5 月 3 日（金・祝）	晴	28,000 人
	5 月 4 日（土・祝）	晴	28,000 人
秋	10 月 5 日（土）	晴	29,000 人
	10 月 6 日（日）	晴	22,000 人
計			107,000 人

※秋は「市民ふれあいステージ」と同時開催。

b　春・秋の和の花展

自然保護団体や園芸家等の協力により，絶滅危惧種を含む山野草，古典園芸植物等の屋外展示，イベントを行い，身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

①　春の和の花展（第 10 回）～京都ゆかりの植物と苔に親しむ～

・期間　4 月 20 日～5 月 6 日（16 日間）　・会場　梅小路公園朱雀の庭，緑の館
・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約 132 種 240 鉢を展示。
・企画展示　山本亡洋と千種有功の比叡山フィールドワーク
・企画出展　京都の苔展（乙訓の自然を守る会，イベント室）
・入場者数　2,135 人

②　藤袴と和の花展（第 11 回）～万葉の花　令和の花　藤袴～

ＫＢＳ京都「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成 21 年度から開催。京都府絶滅寸前種であるフジバカマ約 350 鉢を庭園内の浅池に展示，府レッドデータブック掲載の種を含めた山野草等約 148 種 310 鉢を展示した。フジバカマを保全する水尾自治連合会（右京区），なんやかんや「大原野」推進協議会，市街地で栽培展示を行う深草藤袴の会（伏見区），源氏藤袴の会（上京区）等と広報等の協力を

行い，ＫＥＳ参加団体（(３)ウ参照）の育成鉢の展示も行った。
・主催（共催）　本協会・（株）京都放送（ＫＢＳ京都）
・期間　9 月 28 日～10 月 14 日（17 日間）　　・入場者数　1,989 人
・イベント　香老舗松栄堂「水尾より届いた藤袴の香り」，渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナー(ＢＶアサギマダラの会)，スマホプリ企画「万葉植物と昆虫たち」，山野草展示即売会，生け花飾り体験
・企画展示　ＫＥＳ参加団体のフジバカマ，ヒオウギの展示，万葉集にみる古代京都の風景と花，藤袴とアサギマダラのミニマンガ展

c　梅まつり in 梅小路　コロナ対策のため中止した。

d　京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第 35 回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計 283 点の応募があり，このうち 30 点が入賞・入選した。入賞・入選作品は梅小路公園緑の館で展示された後，けいはんな記念公園，山城総合運動公園，京エコロジーセンター，生涯学習センター知遊館（与謝野町），京都府庁で展示された。
・主催　京都府都市計画協会
・共催　京都府，京都市，(公財)京都府公園公社，本協会，(一社)京都造園建設業協会
・表彰式　10 月 5 日　梅小路公園緑の館

e　地域イベントへの参加

区民まつり等地域イベントに出展し，都市緑化に関連するＰＲを行った。

イベント名／場所	開催日	内容	参加人数
堀川桜まつり／堀川河川敷（一条戻橋～押小路）	4 月 14 日	中京・花とみどりの会との共同出展（屋上緑化・都市養蜂等のＰＲ）	約 100 人
梅小路キッズアートキャンパス／元安寧小	11 月 3 日	ムクロジを使った羽根つきの羽根づくり	60 人

イ　「みどり」に関連した教室等の開催

クラフト等の「みどり」に関連する季節の教室・体験コーナー等を公園ボランティアである梅小路公園花と緑のサポーターの会の協力で開催した。

a　梅の実採り体験

利用者に愛されている梅小路公園梅林内のウメの実の盗難防止を兼ね，事前に告知を行い，子どもを含め，梅の実採りを体験していただいた。
・開催日　5 月 24 日　　・参加者数　200 人

b　多肉植物の寄植え体験コーナー

・開催日　11 月 10 日（下京区ふれ愛ひろば，梅小路公園）　・参加者数 34 人

c　クリスマスリースづくり教室

・開催日　12 月 14 日　　・参加者数　17 組

(5)　市街地緑化事業

ア　まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため，和の花や和のイメージの容器を，施設，住宅，事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や，地域の防犯対策として，花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。（活動の一部イベントは(1)ア e に重複掲載）

a　**島原のぞみデイサービスの沿道**（下京区）
通りに面した「花矢来」，ハンギングバスケット等の植替え・管理の指導。

b　**菊浜学区「花回廊づくり」**（下京区）
六軒橋東詰，高瀬川沿いの街路樹帯への植栽と管理の指導。

c　**朱雀第四学区京エコライフプログラムへの協力（中京区）**
通りに面したコンテナ花壇の植付け指導，小学校に隣接する西ノ京公園の花壇づくりへの協力。

d　**乾隆学区女性会「洛いもを使ったグリーンカーテンづくり」**（上京区）
乾隆小学校，桑の木広場等における洛いもを使ったグリーンカーテンの植付・管理指導。

イ　御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で，沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助，ニュース発行，講習会の実施等の普及啓発を行う業務を受託した。祇園祭に合わせてダルマヒオウギを植えるなど，京都らしさや季節感の演出に努めた。

・全面植替え 4 回，巡回管理補助のべ 144 回
・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 6 回，アンケート調査 1 回
・技術講習（安全対策，植付け・灌水方法等）　7 月 31 日　中京区役所　26 人

(6)　緑の団体支援事業

ア　緑のボランティア団体の活動支援（京都市緑のボランティアセンター）

市内各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための京都市緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体，企業・学校内サークル，京都市の公園愛護協力会，街路樹サポーター等に，ニュースレター，『京のみどり』等を通じた情報提供，京都市が中心市街地で設置する和の花モデル花壇，雨庭（四条堀川交差点）の管理を行う団体への支援等を行った。

・実績　　相談 25 件，団体情報作成・展示 4 件，ニュース発行 4 件，，出張相談・講習 17 件，巡回・維持管理補助 40 件

イ　「京都みどりのサポーター協議会」の運営

５つのボンランティア団体と本協会でつくる「京都みどりのサポーター協議会」（西村勇会長）を通じて，御池通スポンサー花壇沿道「サポーター」の管理活動の補助や普及啓発活動を行った。

・参加団体　梅小路公園花と緑のサポーターの会，中京・花とみどりの会，ＮＰＯ法人科学技術による環境保全を考える会，小野芙蓉会，京都みどりクラブ

(7)　公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア　梅小路公園指定管理業務等の受託

JR 嵯峨野線「梅小路京都西駅」の開業に対応し，良好な維持管理水準と安全安心の確保に努めた。遊戯用電車（チンチン電車）運行業務（指定管理区域外，公園収益事業）については，31 年度も京都市から受託し，他の施設との一体的活用に努めた。

イ　梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「梅小路公園・施設管理者連絡会」，「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街，自治連合会，企業，寺院，行政等で構成。）の構成メンバーとして，公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組みに参画した。

a　梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

各公園施設の管理者が情報交換し，相互の事業の調整や協力，安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を事務局として開催した。

・開催日　第 20 回・5 月 18 日，第 21 回・7 月 5 日，第 22 回・10 月 11 日，第 23 回 1 月 21 日（計 4 回）

・構成　京都市建設局（公園設置・管理者），オリックス水族館（株）（京都水族館），西日本旅客鉄道（株）京都支社，（公財）交通文化振興財団（京都鉄道博物館），（株）コラボ（グリーンハウスコラボ，梅小路パークカフェ），（株）京都駅観光デパート・（株）エーゲル（市電カフェ）・（株）立誠社（市電ショップ），（一財）京都市都市整備公社（駐車場，駐輪場），及び本協会（公園指定管理者）
※第 23 回より㈱ビバ（ビバスクエア京都）参加

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」関連受託事業等

① ルート環境整備業務等の受託

京都駅から公園に至るルートの環境整備を目的とする巡回，モニュメント等の清掃，案内，フラワースポット（コンテナ・地植え花壇）の維持管理等を行った。

② 総合案内所での外国人対応

③ 「京の七夕」梅小路会場（8 月 2～12 日）のイベント

オープニングイベントの「行燈づくり」の実施及び七夕飾りの笹の提供等

c「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」実施イベントへの参加

①　梅小路キッズアートキャンパス　11 月 3 日，会員団体による安寧小学校跡地（下京区）での家族連れ向けのイベント。本協会はムクロジの実を使った羽根つきの羽根づくりコーナーのほか，昔遊びをテーマにしたステージイベントを実施。

d 「梅小路公園・冬芝を育てる会」による芝生広場のオールシーズン緑化

公園周辺の地域団体・企業等（京都青果合同(株)，タキイ種苗(株)，梅小路公園花と緑のサポーターの会，京都みどりクラブ，下京区体育振興会，梅小路小学校，本協会）及び地元学区団体の長の賛同を得て，「梅小路公園・冬芝を育てる会」（本政和好代表（大内学区自治連合会会長），事務局・本協会）が，「京都駅西部エリアまちづくり協議会」の補助金を活用してウインターオーバーシード手法による芝生広場のオールシーズン緑化を継続した。

e　各種イベントの開催，誘致

共催事業を実施するほか，地域団体等が主催する公益性の高いイベントは，開催協力又は誘致を行っている。令和２年 3 月の大規模なイベントはコロナ対策により延期または中止となった。元年度のおもなイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第 1 土曜日	梅小路手づくり市（5 月，1 月，3 月を除く。）　※協会共催事業。
4 月 28 日	第 91 回京都中央メーデー
5 月 6 日	ビー・トライブ春の　発表会（ダンス発表会）
5 月 18，19 日	下京 梅小路フェスタ
5 月 26 日	下京区民グラウンドゴルフ大会
8 月 2～12 日	京の七夕（梅小路公園会場）
9 月 14 日	第 29 回梅小路ふれあいコンサート

9 月 22 日	京都音楽博覧会ＩＮ梅小路公園（第 13 回）（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
9 月 29 日	リベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
10 月 19 日	京都市ほほえみ広場 2019（障がいの有無にかかわらない市民交流イベント）
10 月 20 日	CAP フェスタ
10 月 26 日	京都やんちゃフェスタ 2019
11 月 4 日	京都・まち美化大作戦
11 月 10 日	下京区ふれ愛ひろば（下京区役所等）
11 月 16 日	JA 感謝祭
11 月 17 日	京都市消防団フェスタ
11 月 30 日	京防災フェスタ 2019

ウ　宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもや家族連れが快適に過ごせるよう，良好な管理及びイベントの充実に努め，特に平日の利用の拡大に努めた。トイレ・親水施設等の小まめな清掃，夜間に侵入するシカの糞の除去，プレイパークゾーン法面の侵食の監視等に配慮した。

エ　多世代向け事業（プレイパーク，青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園で，子どもの「遊び，学び，体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者，平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また，だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a　梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し，毎月２回，定例の活動を実施した。季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

・活動日　第２・第４土曜日
・実施回数　定例活動，特別企画及びグリーンフェア　計 23 回（30 年度は 26 回）
・参加者数（子ども・保護者）　計 3,490 人

b　梅小路公園ミニ･プレイパーク

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊び等を行い，公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

・活動日　原則第２木曜日の放課後
・実施回数　8 回　（30 年度は 11 回）　・参加者数　のべ　200 人

c　宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は試験的に平日にも開催したほか，工夫を凝らしたゲームイベント，季節の特別イベントも開催した。

①　通常プレイパーク　29 回（30 年度は 27 回）

・活動日　原則日曜日　・参加者数　のべ 6,288 人（30 年度 6,500 人）

②　特別イベント

・5 月 5 日 ちびっこまつり（京都学生文化児童教化連絡協議会と共催）約 3,000 人
・5 月 18 日 左京・東山児童館学童保育所まつり（共催）　約 2,000 人
・5 月 26 日 龍狐伝説（様々なミッションを用意し，クリアした子どもがカードを集めるオリジナルのゲームイベント）　約 160 人
・9 月 14 日　お月見イベント　15 組
・10 月 13 日　どんぐりまつり　約 2,000 人

・11 月 24 日　子どもわくわくランド（人形劇等）　約 250 人

③ けむんぱクラブ（宝が池ミニプレイパーク）

平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に，森の散歩やもの作り等を通じて，親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

・開催日　毎月第 2 木曜日，第 2 金曜日（2 クラス）

・実施回数　計 20 回　参加者数 のべ 863 人（30 年度は 29 回，のべ 864 人）

④けむんぱアドベンチャー（森林整備・アウトドア）

小学校低学年までの児童と保護者（親子）を対象に，森林整備や森の散歩等を通じて，親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

・開催日　5 月 12 日，9 月 29 日，12 月 8 日，3 月 8 日　（日曜日開催）

・実施回数　計 4 回　参加者数 のべ 136 人

d　青空健康づくりプログラム

① **ウォーキング教室**　だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして，梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を（公財）京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群，通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

・講師　（公財）京都市健康づくり協会　健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー

・内容　ストレッチ，正しい歩き方指導，筋トレ，脳トレ，バランス運動，簡易体力測定，アンケート等

・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7 月）	心もカラダもスッキリと。いろんな運動を楽しもう！
夏～秋クール（8 月～11 月）	継続は力なり。無理のない範囲でからだを動かそう！
冬クール（12 月～3 月）	背スジを伸ばして寒さに負けない体力づくりをしよう！

・参加料　1 クール 500 円（回数により減額）

・開催日　第 2・第 4 火曜日　計 23 回　のべ 766 人参加　（30 年度は 24 回。）

※最終回はコロナ対策のため中止。

② **梅小路芝ヨガ**　広々とした公園での健康づくり，「1 年を通じて緑の芝生」の良さを知っていただくため，誰もが参加できるヨガ教室を開催した。

・開催日　5 月 3 日，11 月 23 日　・講師　Yoko Ogami，Sandra Fang（2 部制）

・参加者数　計約 380 人　・参加費　無料

オ　公園ボランティアの運営，連携，支援

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では，花壇管理，ビオトープ運営，市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし，宝が池公園子どもの楽園では，子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

a　ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週 2 回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか，講習会の運営補助，公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

・会員数　令和元年度末現在 37 人　・実績　活動回数 103 回，参加人数のべ 873 人

・活動例　市立白河総合支援学校生徒との花壇づくり，京都音楽博覧会への出展，上賀茂神社境内「葵の畑」づくりへの協力，園芸体験活動の指導等

b　梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

バリアフリーの観点で造られた通称「セラピーガーデン」等で，毎月２回，園芸作業や交流を行っている。園芸セルフケア教室（(1)ア c）とも連携。

・指導　花と緑の普及員　寺田裕美子（園芸療法士（米国ＨＴＲ）

c　市電車両の保全管理，及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両（チンチン電車，市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両）の清掃，点検，簡単な整備，保全管理のアドバイス，イベント時に運行していた市電の写真，模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力をいただいている。（市電ひろば協力会，日本路面電車同好会関西支部，伏見チンチン電車の会）

カ　社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動，公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

a　総合支援学校の社会体験活動の受入れ（梅小路公園）

市立白河総合支援学校の生徒９人の社会体験活動を受け入れ，ボランティアとの協働作業を交え，７月の計６日間，管理活動を行っていただいた。

b　学生インターンの受け入れ

京都学園大バイオ環境学部学生 梅小路公園・子どもの楽園（8～9 月）計７人

キ　円山公園巡回・案内業務

市内有数の観光地である円山公園(国名勝)の施設，樹木の枯損等の確認，サクラ開花案内や紅葉の状況等を含む問合せ対応を京都市から受託して実施した。また，平成 31 年４月の祇園枝垂れ桜ライトアップ時のかがり火管理業務，ゴザ回収業務も継続して受託したが，令和２年３月のかがり火等はコロナ対策のため中止となった。

ク　岡崎公園芝生広場維持管理業務

梅小路公園芝生広場等の管理経験を活かし，岡崎公園の利用の中心である芝生広場の良好な維持管理に関する業務を 30 年度に引続き京都市から受託した。

ケ　平安神宮神苑「平安の苑」再生・維持管理

コ　さすてな京都（南部クリーンセンター第二工場）における千両松の植樹・保全

(8)　広報・出版

ア　広報誌・パンフレット等の発行

a 『京のみどり』（季刊）の発行

市内各地の緑に親しみ歩いていただくためのマップを作成し,緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を継続。また，グリーンインフラとして注目される雨庭の概念と事例を紹介するシリーズ，園芸相談，プレイパーク等協会事業，京都市の公園緑地施策，市内の庭園等の情報を紹介した。

・各号の特集の概要

第 91 号(夏号) ７月発行	特集「氷河時代の遺跡・深泥池」【北区】(深泥池の過去･現在･未来，深泥池水生生物研究会等)
第 92 号(秋号) 10 月発行	特集「一乗寺秋さんぽ」【左京区】(一条寺の紅葉･歴史探訪コース，八大神社，狸谷山不動院等)

第 93 号(冬号) 12 月発行	特集「くらしに息づく薬草文化」(漢方薬局，薬草紹介(食生活・祭事・祝い・風習)，薬草湯等)
第 94 号(春号) 3 月発行	特集「音羽川さくらさんぽ」【山科区】(音羽川遊歩道，若宮八幡宮，山科別院，ふるさとの会等)

・部数　各号 7,000 部（配布場所・配布先：市政案内所，区役所・支所，市立図書館，公園愛護協力会，全国の緑化団体等）

イ　ホームページによる発信

イベント，公園施設，京都の緑の文化等の情報提供等のため，メインのホームページ（http://www.kyoto-ga.jp/）を運営している。アクセス件数（※）は 1,292,173 件（前年度比 8.14%減）であった。このほか，円山公園の観光案内，深草墓園の利用案内，京都の庭園を紹介する海外向けサイト（Ⅰ－２イ）もタイムリーな発信に努めている。

※Visits（訪問者数）　30 分以内の同一 IP をカウントしない実質のアクセス数の指標。

(9)　調査・情報収集

施設の適切な管理や情報発信の基礎資料とするため，モニタリング等の調査・情報収集を行った。

ア　梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会によるいのちの森のモニタリング活動への協力を行った。開園から 23 年を経過した森の変遷と，森で見られる生き物を紹介する展示パネルを引き続き掲示し，来園者にモニタリング調査の様子を紹介した。

イ　宝が池周辺の森林

宝が池公園子どもの楽園周辺で，京都府立大学，京都大学，京都学園大学及び地域団体・事業所等で構成する「宝が池の森」保全再生協議会と協力し，ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や，シカ食害の影響等の観察を継続している。

ウ　グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラとして注目される雨庭の調査研究と一般への普及を目指す「京都雨庭研究会」を事務局として運営し，『京のみどり』等での発信，具体的な開発テーマを持った研究会開催等を行った。(一社)京都造園建設業協会，京都市等が参加。

・会合　第 8～12 回（5 月 16 日，7 月 8 日，9 月 10 日，11 月 18 日，1 月 27 日）

エ　平安神宮神苑池浚渫検討委員会運営及び調査

平安神宮振興財団の委託（平成 30 年度からの２か年）を受け、イチモンジタナゴ等の希少生物を調査し，その生息環境である神苑池の環境改善のための浚渫計画に生かした。

Ⅰ－２（公２）京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額　24,293 千円　（予算額　20,704 千円）

京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として，庭園の保全管理業務，その中での庭園講座等への活用，及び優れた庭園に関する情報発信

等を行った。

ア　梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い,伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について,管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに,活用策としてイベント等を行った。

a　紅葉まつり

紅葉期間中の夜間活性化策として，例年好評の「朱雀の庭」夜間ライトアップを自主事業として実施した。ホームページの告知，周辺施設，ホテル等へのポスター，チラシ配布を行った。

・期間　11 月 15 日～12 月 1 日（15 日間）　入園者数　5,510 人

b　朱雀の花会

いけばなの花材を自由に使い，気軽な形式で生け，作品を庭園に置いて写真を撮るなど，花と庭の文化を楽しむイベントを開催した。

・講師　西村良子（華道家）

・開催日　7 月 6 日，10 月 6 日　　・参加者　計 24 人

イ　庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し，広報誌「京のみどり」（季刊），前年度末にイメージを刷新したホームページ等において,庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。また，海外に向けた日本庭園の情報発信のため，造園関係団体と協力して英文サイトを立ち上げ，令和 2 年 3 月にまず 19 庭園の英文記事を掲載した。

ウ　庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」，伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に，庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a　庭園文化講座

・受講料　第 1・2 回 2,500 円，第 3 回 2,600 円（庭園拝観料含む。）

・受講者　のべ 54 人

・各回の実施内容

回	開催日	内　容	講師（敬称略）
第 1 回	1 月 29 日	（座学）中世の庭（見学）天龍寺庭園	吉田昌弘
第 2 回	2 月 12 日	（座学）近世の庭（見学）渉成園	吉田昌弘
第 3 回	2 月 26 日	（座学）近代の庭（見学）平安神宮神苑	吉田昌弘

（※30 年度は 3 回実施。）

b　庭園ガイド活動

庭園ガイドボランティア（Ⅰ(1)エ関連）による，朱雀の庭・いのちの森のガイド活動で，個人向け（原則月 1 回），団体向け（予約制）として実施した。

・ガイド実績　計 14 回実施　のべ案内人数 260 人（ガイド 33 人）

c　（一社）日本造園修景協会第 41 回「伝統庭技研修会」研修会の企画運営への協力

全国の造園家等を対象にした研修会の企画運営業務を受託し,京都の庭師による,二条城，妙心寺東海庵，退蔵院の庭園についての解説を行った。

・開催日　11 月 28 日，29 日　　・受講者数 53 人

Ⅱ　公園収益事業

決算額 152,419 千円　（予算額　142,648 千円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販売事業，国立京都迎賓館庭園保全管理業務，深草墓園指定管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア　自動販売機飲料販売事業

イ　梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

新型コロナウイルス感染症の広がりにより，令和 2 年 2 月以降の貸室の利用は伸び悩んだ。遊戯用電車運行業務は，コロナ対策のため，2 月 29 日から運休した。

ウ　宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

エ　国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，内閣府からの受託事業として，造園に携わった造園業者とともに，管理保全指針に基づき，計画的な景観づくりに努めた。

オ　深草墓園指定管理業務

深草墓園の指定管理業務を新たに受託し，60 年以上の歴史がある納骨堂及び新たに設置された樹木型納骨施設の運営のため，実務経験者を含めた人材を確保し，前指定管理者の協力を得ながら，運営事務の研修，習熟，確立に努めるとともに，公園管理の経験を生かし，中長期的視点に立った植栽管理のための樹木整理やバリアフリー，防犯，ハザードの除去に配慮した安全確保を進めた。

Ⅲ　法人業務

決算額 4,600 千円　（予算額　3,206 千円）

自律した経営方針を掲げている京都市外郭団体中期経営計画（平成 30～32 年度），公益認定関連の法令，及び内外の情勢に対応し，法人業務を行った。

(1)　理事会・評議員会

理事会を 2 回，評議員会を 1 回開催した。第 17 回理事会及び第 10 回評議員会では，決議事項とは別に京都市出捐率引下げの方針，方法及び時期について事務局からの説明及び質疑を行った。第 18 回理事会では，京都市外郭団体自律化の取組として，基本財産の京都市出捐比率引下げ（自己資本による造成）の決議を行った。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 17 回理事会	令和元年 6 月 5 日	平成 30 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件

第 18 回理事会 （和順会館）	令和 2 年 3 月 19 日	基本財産の取り崩し及び造成の件 令和２年度事業計画及び収支予算の件 資金運用の執行方針及び計画の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 10 回評議員会	令和元年 6 月 19 日	平成 30 年度収支決算の件 理事選任の件 監事選任の件 評議員選任の件

(2)　京都市令和元年度公金収納受託者に係る会計検査への対応

京都市会計管理者による令和元年度公金収納受託者に係る会計検査が遊戯用電車使用料及び深草墓園使用料を対象として令和元年 12 月～2 年 2 月の間に行われ，各所管局を通じて領収調書受払簿の様式，収納金出納簿の記載法等の誤りの指摘について指導を受け，是正を行った。

(3)　ＫＥＳ環境改善活動の継続と認証

平成 29 年度に再取得したＫＥＳ（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の環境改善活動として省資源，地域清掃,及び希少植物保全活動等に引き続き取組み，3 年目確認審査を令和 2 年 2 月 20 日に受けた。

(4)　新規業務に備えた体制整備等

新たな指定管理業務である京都市深草墓園運営のため,前指定管理者からの引継ぎ協力を得ながら，人材募集，研修，（公社）全日本墓園協会への加入を行った。また，業務を年度当初から推進するため，事業推進積立金 1,500 万円（1 号財産）を取り崩し，流動資産に変更したが,３か年で積み戻しを行う計画に従い,500 万円を事業推進積立金に積戻した。４事務所体制となったことやコロナ対策のため，オンライン環境の充実に努めた。

事業報告の附属明細書について

令和元年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので，作成しない。